

Q - U事例検討会で 子どもと学級集団を見る目を磨く

研修後のアンケート結果	
満足	71名
おおむね満足	23名
やや不満	0名
不満	0名
無回答	2名

評価の高かったQ - U活用研修

8月に行われた研修には、各小・中学校の代表と希望者16名の計96名が参加し、午前中は都留文科大学の粕谷貴志先生による講義、午後は6人グループとなり、模擬事例を使って全員で検討会を体験しました。アンケートには、参加者から次のような意見や感想が数多く寄せられました。

Q - Uは、実施してただ結果を眺めるだけでは意味がなく、このような事例検討会を行って初めて見えてくることが多いことを痛感しました。
Q - Uがこんなに利用価値があるとは知りませんでした。



Q - Uの結果だけで理解しようとするのではなく、日ごろの観察やかかわりから得た情報と併せて検討することで理解が深まることがよく分かりました。結果について疑問に思っていたことも理解できました。

学級担任は、一人で学級の問題を抱え込まずに、オープンにして皆でQ - Uの結果をもとに考えていくことが大切だと思います。
プロットを見られるのは辛いかもしれませんが、乗り越えなくてはなりませんね。



どうする？ 時間の確保



慣れてくればもっと短時間でできるよ～ん。

全員で1つの学級について検討するには、どうしても100～120分程度の時間がかかります。

しかし、検討会を行うことが、全ての参加者にとって、今、かかわりを持っている子どもたちへの、より質の高い教育サービスの提供につながることを考えれば、年に一度は時間を設けてじっくりと行いたいものです。

事例検討会の詳細を記した第13号の内容に、追加事項があります。

- ・ グループは5～6人を基本とし、グループ内で司会、整理係1・2、発表係1・2、配り係の各係を決めます。
- ・ カード記入前にブレインストーミング(グループ内で自由に話し合う)を行い、各自がイメージを膨らませます。
- ・ アセスメントで挙げた項目をもとに、今の学級の状態に至るまでの流れを考え、各項目を順位づけます。
- ・ 対応策の記入では、この先1ヶ月くらいのうちにやってみる価値のありそうなことを、具体的に記述します。
- ・ 対応策を記入したカードは、色によらずに内容が近いもの同士をまとめてタイトルをつける方法もあります。

TOPIC

校内研修会を支援します！

Q - Uの概要と検討会の進め方を解説したCD-ROM(60分)をお貸しします。教育センター職員が事例検討会に参加し、会の進行役を務めます。

2回目用、小学1～3年用、先着順で提供します！

校内研修会で取り上げた学級や、とくに必要な学級については、2回目用を学級の人数分提供します。小1～小3用も若干ですが用意しました。原則として、1校につき1学級分、先着順となります。